

# 音楽祭を開催しました

千葉病院の春の恒例イベント「音楽祭」を、3月12日に開催しました。当院は「音楽のある精神科の病院」を特徴のひとつとしており、一年を通して、音楽を用いた治療活動を行い、イベントを企画しています。

当日は、オーケストラ、三味線、タップダンス、ピアノ独奏など、多種多様な演奏が行われ、会場となった中央ホール全体が音楽に包まれるとともに、入院患者さんも職員も楽しいひと時を過ごしました。



～ 最善の行動と信頼 ～

## 医療法人 同和会 千葉病院

### 【病院概要】

- 診療科  
精神科・神経科・歯科（要予約）
- 院長  
小松 尚也
- 外来診療時間  
平日9:00～12:30（月曜日のみ9:30～12:30）  
土曜日9:00～12:30（午後は予約制）
- 休診日  
木曜日・日曜日・祝祭日・6月1日（創立記念日）
- 所在地  
〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-508  
Tel: 047-466-2176 Fax: 047-466-7503  
ホームページ: //www.chiba-hp.on.arena.ne.jp



### 千葉病院 患者様の権利

- ①個人として、人格およびプライバシーが尊重されます。
- ②安全な環境で、可能な限りの良質な医療が提供されます。
- ③職員のいかなる行為に対しても説明を求め苦情を申し立てることができます。
- ④精神保健福祉法に則った医療および処遇が保障されます。
- ⑤職員から思想・信条・宗教および個人的関係は強制されません。
- ⑥個人情報保護が保障されます。

発行: 医療法人同和会 千葉病院  
発行日: 平成28年3月12日  
住所: 千葉県船橋市飯山満町2-508  
Tel: 047-466-2176 Fax: 047-466-7503  
URL: //www.chiba-hp.on.arena.ne.jp/

千葉病院院外報「ういんぐ」2016年春号をお送りいたします。1面では、当院の今年イベントカレンダーを載せました。また、今号より、ドクターコラムは伊藤医師による「抗精神病役の『副作用』」が連載されます。併せてご高覧ください。

# ういんぐ =WING=

千葉病院広報紙 2016. 春号（第52号） 発行者 医療法人同和会 千葉病院

## 千葉病院行事のご紹介

当院では、年間を通じてさまざまなイベントを開催しています。主に入院・外来患者さんのためのレクリエーションを目的としたものですが、中でも、初夏の「あおぞら祭り」と、8月の「盆踊り」は、地域の人々にも多くのご参加をいただき、病院の駐車場や院庭を開放して、さまざまな模擬店や、太鼓やダンス、ソーラン節演舞などの催し物を企画しております。今年も、多数の皆様のご来場・ご参加をお待ちしております。

※行事の年月日は予定です。あおぞら祭り、盆踊りにつきまちは、次号以降改めてご案内します。

「音楽のある病院」を掲げる当院を代表する春のイベント。今年の様子は裏面をご覧ください！

2016年3月12日 音楽祭

名作や話題作など、さまざまな作品の中から、レク委員会が厳選したものを上映しています。

5月25日 映画会

## 6月11日 あおぞら祭り



初夏の晴天のもと、青々とした芝生の上で、ソーラン演舞やダンス、楽器演奏などが行われます。

## 8月3日 盆踊り



かき氷や焼きそばなどの模擬店や太鼓の演奏、そしてもちろん盆踊りの輪も。ちょっと早い納涼気分を一緒にどうぞ！

10月12日 映画会

12月14日 クリスマス会

患者さんたちが病棟やデイケア、OTなどグループごとに出し物を発表。医局の先生方も参加します。

# 当院から地域へ 地域から当院へ

当院は千葉県東葛南部の認知症疾患医療センターを併設しております。センターでは、認知症やその予防について、講演会やセミナーを通じて地域の人々に啓発活動を行っております。2月23日には、当院中央ホールにて、医療講演会を開催いたしました。

## 医療講演「認知症かもしれないと思ったら」

2月23日(火)14時～16時、当院4階中央ホールにて、当院小松尚也院長による医療講演「認知症かもしれないと思ったら」を開催しました。参加者は70名。前半は講義、後半はグループディスカッションと質疑応答という構成で、参加者からは「認知症に関する基礎知識がわかり良かった」、「グループディスカッションがあると、全体で話すのに抵抗ある方も話しやすくて良かった」、「自分の老後、年老いて行く親のことを考えるととても参考になった」等の感想が聞かれ、大変好評のうちに終了しました。



千葉病院Drによる医療コラム 第24回

## 抗精神病薬の「副作用」 その1

千葉病院医師 伊藤 順子

お薬を飲むことによって精神症状が軽くなる反面、体が固くなったり震えたりする症状に悩んでいらっしゃる方はいらっしゃいますか？

これから3回にわたり、代表的な薬の副作用について説明いたします。

第1回目は「錐体外路症状」についてです。

抗精神病薬はドパミン神経の働きを抑える作用があり、それによって精神症状が改善しますが、その抑制作用が強くなってしまえば体が固くなったり震えたりする症状が出現します。この症状が「錐体外路症状」と呼ばれるものです。

錐体外路症状には、①体がうまく動かない、手が震える、小刻みに歩く、よだれが多量に出るなどの「パーキンソニズム」「パーキンソン様症状」、②頭や首、手足が不自然な動きをしたり、目が上を向いたまま正面を向かなかったり、体が傾き手足が突っ張ったりするなどの「ジストニア」、③足がむずむずするために絶えず歩き回ったり、じっと座っていることができず落ち着きがなくなったりする「アカシジア」、④無意識に口がもぐもぐと動いたり、舌を突き出したり、体をくねらせる、ねじるような動きをしたり、手足が勝手に動いたりする「ジスキネジア」があります。

錐体外路症状の治療としては、抗精神病薬の種類を切り替えたり、薬の量を調整したり、パーキンソン病の治療薬などを使ったりする場合があります。しかし自己判断で調整したり薬を急にやめたりすると精神症状が以前より悪くなる場合がありますので、必ず主治医に相談してください。

ここは、千葉病院の活動を紹介するコーナーです。

# 退院支援への取り組み

訪問看護室

2014年4月に、精神保健福祉法が改正され、退院支援について新たな制度なども設けられました。その制度改正も踏まえ、当院での「退院支援」への取り組みについて、連載しております。第7回目となる今回は、訪問看護部門における退院支援の取り組みを紹介いたします。

訪問看護の対象となるのは当院に通院されている患者様です。退院後ご自宅やグループホーム等へ訪問することになります。患者様やご家族が退院後安心して地域で生活できるように支援しています。

## 訪問看護オリエンテーション

初回入院や長期入院からの退院時にはじめて訪問看護を利用する場合、可能であれば担当看護師が病棟に出向き受け持ち看護師や担当PSWが同席の上で面接します。そして患者様やご家族の要望などを伺い退院後の初回訪問日を決めます。退院前に面接することで、退院直後からスムーズに訪問看護がスタートできています。

## 継続した支援

訪問看護を利用していた患者様がさまざまな理由で入院し短期間で退院となり訪問看護を再開する場合があります。その場合は入院時から退院支援が始まっていると考えます。なぜ入院に至ったのかという理由や退院支援について関係者間で共有する機会として訪問看護会議があります。

## 訪問看護会議

目的：訪問看護業務が円滑に進むように訪問担当者間で情報を共有し、問題の提起・検討を行う

開催日：毎月第4火曜日

メンバー：医師（訪問看護担当医）、精神保健福祉士（地域生活支援室担当者）看護師（訪問看護担当者・外来担当者）

内容：訪問看護の実施状況の報告  
問題点の提起と検討  
ケース検討⇒個別的に具体的な支援を検討  
その他



現在3名の看護師で活動していますが、退院支援についてはまだまだ十分とは言えません。今後は個別の退院調整会議等も積極的に参加していけるように取り組んでいきたいと思っています。



